

添付資料8. シニア事後アンケート結果概要

「対話イン東北'09」シニア事後アンケート結果と要約(代表的意見)

2009/10/15 シニア世話役伊藤睦

項目	人数	割合	代表的意見
1 対話の内容は満足のものでしたか？(理由についてもお願いいたします。)			
とても満足	3	21%	若い学生の物事に取り組む真摯な姿に触れることが出来、とても気持ちが良かった
ある程度満足	8	58%	学生さんが熱心に疑問や意見をぶつけてくれたため、快く、熱意をもって対応することができたから、その限りでは満足のものであったが、議論を掘り下げ、双方の熱意を一層かきたてるまでには至らず、やや不満が残った。
やや不満	3	21%	事前に対話項目を絞り込んで準備したのにもかかわらず、討議は平板だった。学生さんが、この機会に先輩の本音、体験からのアドバイスを聞くための準備が要ると思う。ファシリテーション方式だと、対話に突込みがないと深い話にはならず、入り口論の往復になる。討議時間の制約から、発表形式と体裁づくりに時間が取られ、続く議論の展開がないのはさびしかった
大いに不満	0	0	
2. 学生は熱意を持って対話に参加していましたか？			
とても熱心だった	7	50%	対話時の目の輝きから、学生の対話に寄せる期待の程が窺えた。
おる程度熱心だった	6	43%	対話に臨んで、シニアの話を何でも聞こうとする熱意は感じられた。ただ、せっかくの機会であるので単なる情報の取得ではなく、自分で問題点を整理してその事についてシニアの意見を聞こうとするような熱意が感じられないのは残念。
どちらでもない	0		
あまり熱心でなかった	1	7%	基調講演での居眠り組は頂けない。エネルギー工学を学ぶ立場であれば、エネルギーの新たな評価手法として提示されたEPRにつき、厳しく活発な質疑が交わされるものと期待していたが、残念であった。
熱心でなかった	0	0	
3. 対話の会場の雰囲気はいかがでしたか？			
良い雰囲気だった	11	85%	明るい雰囲気良かった
ある程度良い雰囲気だった	2	15%	前回、前々回よりはるかに明るく、熱心だった。東北地方の特性か、習慣からかも知れないがデベート型、おしゃべり型の学生が少ないのでおとなしい会話になったが、明るく熱心さは感じ取れた
どちらでもない	0	0	
あまり良くなかった	0	0	
良くなかった	0	0	
4. 学生がテーマを決めたことによる対話のやりにくさは感じませんでしたか？			
感じなかった	8	61%	テーマを決めること自体は賛成。実際の対話では、それにこだわらず、関連する様々な問題に触れてほしい。

あまり感じなかった	1	7%	やりにくさに関する感想ではないが、「核融合炉と核分裂炉との比較」等のテーマは科学的知識を得るためのものであって、授業で学んだり市販の参考書を読めば済むことであり、シニアとの対話には不向きなテーマであると思う。シニアの人格や経験を直接感じ取り、自身の将来に生かすことが「対話会」の最大の目的であると思う。
感じた	4	31%	わがグループ#8 は「学生時代に身につける素養、知識・・・」であったので「対話会」のテーマに葉ふさわしかったが、グループによっては 高速炉VS軽水炉、EPR 評価の原子力 などはテーマではない。先輩の体験が絡まない未来志向のものは学生と大学教授陣殿テーマであり、学生テーマが群わけのために8群を作ったが、同じテーマを2-3グループでやっても良かったと思う。次回には一考を要する。
			今回のテーマは「学生に求められている能力とは？」というものであり、シニアに対して何を期待しているのかをもう少し明確にしてから議論をしないと、時間が足りない。
非常に感じた	0	0	

5. テーマに沿って学生が検討した議題／質問を事前に確認するやり方はいかがでしたか？

とても良かった	4	29%	対話をスムーズに展開する上で、「予め準備する」心掛けは必須で、その観点からはこれまでの対話会にない入念な備えであった。テーマに関しては、密度の濃い対話であったと評価したい。
良かった	7	50%	学生がテーマについて事前に検討したことはそれなりに効果があったと思う。ただ、議題や質問の内容についてももう少し掘り下げて検討し、整理しておいて欲しかった。特に、Gr. 5では原子力広報に深く関わるテーマを選択したにも拘わらず、東北電力や経産省等から出している原子力広報を知っている学生がほとんどいなかったことには失望した。
どちらでもない	1	7%	回答がすべて用意されたのでは、対話の意味が薄れる。質問の背景、思いなどをぶつけることにより、更なる対話、議論が期待される。運用次第であるが、事前に用意された範囲に制約されるとしたら、事前確認の方法は反対である。
あまり良くなかった	1	7%	全てのGr. ではないが細かな質問事項を列挙して、シニアに回答を期待する姿勢は頂けない。簡便に回答をもとめ、自ら努力の途を閉ざすことにつながり、折角の対話の機会を単なる回答収集会に変質させるだけだ。テーマ設定と質問は、飽くまでスムーズな対話の展開を図る手段であり、その先の「双方向の対話」「心の触れ合い」を通じて、若者に乏しい「豊かな経験」「発想の多様性」「思考の深さ」などなど、シニア特有の財産を如何に惹き出すかに眼目を置いて貰いたい。もうワンステップの配慮、備えがあれば、格段の成果につながると思われる。惜しい！！
良くなかった	1	7%	全く良くない。反対。言語道断でシニアの答案を求める態度はなっていない。対話は書式ではない。オーラ交換である。

6. 東北大では初めてファシリテーション(FT)方式を採用しましたが、FT方式による対話はいかがでしたか。(感想についてもお願いいたします。)

とても良かった			
---------	--	--	--

良かった	9	69%	ファシリテーション方式で対話したい事項を最初にスタアップしてそれらについて学生さんたち全員の意見を聞くことができ、従来に比較して、学生さんの発言がかなり出たと思っている。ただしまだまだ不足であり、今後の改善が必要か。
どちらでもない	3	23%	今回のFT方式は、発言機会均等に向かわせたが、論点は各自の興味へと、バラバラになった。FT方式は、今回の場合、議論を白熱させる触媒ではなく、議論を平板にする触媒になった。
あまり良くなかった			
良くなかった	1	8%	慣れていないしこれに囚われて時間ロスが多かった。各人の関心項目の整理はシニアの到着以前に学生同士でやっておいて、シニア参加後はこの中の十点ポイントを突っ込み討論すれば中身が濃くなったと思う。FT方式を事前に勉強しておく必要がある。だから、発表内容も高校生の遊戯会みたいに平板なものが多かった。

7. 本学での対話は他会場と比較して原子力系で比較的高学年の学生が中心になって参加していますが、そのことについて何か感じますか？

大変良いと思う	2	15%	かなり対話したいことの具体的内容を持っており、これはこれで良いことであると思う。
良い	6	46%	知識レベルが揃っていれば対話の効率は上がる。
何とも感じない	1	8%	それぞれの特徴があり、それぞれの狙いがある。それにそって進めてゆく必要がある。B4～M1主体の編成では、B4の学生が次のリーダーとしてどう改善してゆくかを考えてもらえるので、継続するうえで、良い仕組みと思う。
参加者に幅をもたせるべき	3	23%	今回が初めてであり、比較できませんが、言えるのは、殆どが原子力を志したもので、議論はあまり発散せず、まとめやすかったことと思います。原子力PRを考えるなら、参加者の幅を広げた方が良いでしょう。このことにより、原子力系の学生も理論武装の必要性を感じると思います。
その他	1	8%	功罪相半ばという感じ。テーマによっては原子力系中心が良い場合もあるかもしれないが、我がグループのテーマのようなのだと、特に対象者を選ばないし、むしろ多様な学生がいたほうが良い場合もある。

8. 来年度、東北大でシニアとの対話があった際に、参加されたいと思いますか？

まだ話し足りないので参加したい	8	61%	
十分話が出来たのもういい			
2度も必要ないと思うからもういい			
その他	5	39%	学生諸君が望み、お役にたてるのであれば喜んで参加したいが、上述の諸点につき、次回に向けて更なる工夫をお願いしたい。 学生諸君は年々変わるし成長してゆくので、いつも新鮮な対話が期待できる。ぜひ継続していただきたい。私も引き続きチャレンジしたい。 私は参加結構です。ただ(5)、(6)を徹底的に改善、改修して置いてください。ほかのラウンド回数の多い大学と比べ傑出した方式、目覚しい成果と言う点で遅れています。だが、東北人学生との対話は楽しいので方式改善と、学生の育ちを見て行きたいと思っています。

注)回答者は13名である。東北SNWは不含
同一人が2種類の回答を寄せたり回答が無い項目がある。